

第22回 千葉県食育推進県民協議会 会議要旨

1 日 時 令和4年8月30日(火) 午前10時～11時30分

2 場 所 Zoom 会議 (中庁舎3階第2会議室)

3 出席者 構成員15名

4 結果概要

(1) 開会

(2) あいさつ 農林水産部長

(3) 議題

①第4次千葉県食育推進計画及び第3次計画指標の達成状況について

- ・資料1により農林水産部安全農業推進課から説明

②令和4年度の取組について

- ・資料2により農林水産部安全農業推進課から説明
- ・資料3により健康福祉部健康づくり支援課から説明
- ・資料4により教育庁教育振興部保健体育課から説明
- ・資料5により千葉市健康推進課から説明

(4) 意見交換

○明石座長

県内の54市町村のうち推進計画がない4市町は、なぜ策定が進んでないのか。

○千葉県安全農業推進課 伊藤班長

策定に向けて動いていたが、コロナ禍ということで会議が開催できなかった、とか、健康増進計画と一緒にタイミングで策定や更新をしようとしている市があると聞いている。

○明石座長

給食施設で栄養士が配置されていないところがあるが、栄養士がいなくても給食を作っているのか。それとも、調理師はいるが、栄養士が派遣されてくるということか。

○千葉県健康づくり支援課 田邊主査

学校給食施設や病院給食など栄養士の配置基準がある施設には配置がされているが、事業所給食施設、児童福祉施設、有料老人ホームなど、栄養士の配置基準がない施設種別で小規模な施設などは、栄養士がいない施設が比較的多い。その場合、各保健所の担当者から助言をしたり、市町村に配置されている栄養士がサポートなどして

いる。

○明石座長

調理師による県民の食生活の向上に関する条例で、調理師の調理技術向上の講習会を開いているが、受講者に賞状や認定証を出しているのか。

○千葉県健康づくり支援課 田邊主査

調理師の講習では、修了された方には修了証を交付している。

○明石座長

その修了証があると、再就職する場合の特典とか、何か良い効果はあるのか。

○千葉県健康づくり支援課 田邊主査

千葉県が発行をしている修了証だが、再就職だったり、或いは職場の方でどう取り扱われているのかというところまでは、今のところは把握ができていない状態である。

○明石座長

非常にいい試みなので、県の商工労働部等や、国のハローワークと連携していただくといいかと思う。

それでは全体的な意見交換に入りたいと思います。

資料で、千葉県の第3次の食育推進計画の達成状況が出ている。この数字について、皆さん方のご意見をいただきたい。

例えば2の「「千葉県産農林水産物」を購入したいと思う県民の割合」が、目標の85%に届いていない。漁業組合の鶴岡さん、何かご意見はあるか。

○千葉県漁業協同組合連合会 鶴岡氏

水産物は、どうしても調理の手間だとか、或いは可食部以外の部分が多くてなかなか食卓に上がっていかないとか、いろいろな意見があって、気持ちと実態がなかなか合っていないというところがある。

魚が健康にいいということを含めてPRしていきたい、何とか進めていきたいと思っているが、なかなか進んでいないのが現実である。

○明石座長

イオンの鈴木さん、千葉県の農林水産物を千葉県民の方にもっと買っていただくにはどうしたらよいと思われるか。

○イオン(株) 鈴木氏

我々の店頭でも、地産地消という形で地場の商材を地域の方に味わっていただく、購入していただく取り組みは、常々させていただいている。例えば、顔が見える形とか、その商品がどこで誰によってどのように作られたかというところを知っていただ

くのがいいのではないかと思っている。

多くの方が千葉のいろいろなブランドを認知しているし、一定の発信はある。そういう意味だと、我々みたいな小売でもっと情報発信をしていくというところで、県や生産者の情報を、より効果的に出せるようなものがあれば、もっと上がるかと思う。

○明石座長

例えばピーナツでは「Pを超えるQナツツ」など、良いキーワードを探して、ブランド化するとよいのではないかと感じている。

千葉食育ボランティアの今井さん。私たちが、子供も含めて、より一層地産地消をする良いアイデアがあったら願います。

○ちば食育ボランティア 今井氏

千葉のブランドは今で言うと梨とか、生落花生である。私はマルシェを月2回やっているが、すぐ売り切れる。千葉の梨や落花生、いまだと「おおまさり」だが、かなりブランドが浸透していると思うので、もう少し、ブランドです、ということに力を入れていけば、もっともっと誇りを持って進めていけるのではないかと思う。

○明石座長

千葉県の松戸は二十世紀梨の本家であったり、やっぱり日本一の梨を作ってる県ですから、梨県というのは、一つの提案かなと思っている。

では、次に3番目の、「農林漁業体験に参加したことがある県民の割合」が5割にいてないというところ。専門の千葉自然学校の小松さん、いろいろ頑張ってくれているが、子供を含めた県民の参加を促進するアイデアがあったら願います。

○千葉自然学校 小松氏

この2年3年、やはりコロナ禍の中で、宿泊体験が中止になったとか、日帰りに変わってしまったというところもあり、子供たちが体験する場が大分失われてしまっている。コロナ禍明けには、そういった体験ができるような仕組みを、再度、学校関係の皆さんにはお願いしたいと思っている。

一昨日も、稲刈りの体験を、親子、それから子供を含めて60人ぐらいでやってきたが、体力が大分低くなっている関係で、予想以下の刈り取りになり、最終的にはコンバインでやってしまったということもあった。やはり田植えをやったならば、次に稲刈りをやり、そして収穫したものをみんなで食べるというような仕組みを今後も続けていければと思っている。

ぜひ学校関係でも、農林漁業の体験を取り入れた宿泊体験をしていただければと思っている。

○明石座長

今、幼稚園や保育園、小学校低学年の遊びの中で、“だるまさんが転んだ”という遊びができない子が増えている。“だるまさんが転んだ”は、すべての遊びの基礎基本だ

と思うが、体幹、体の幹を鍛えてない。そうすると田植えとか稲を刈るということまで影響すると思っているが、やはり健康づくりと同時に、体力づくりの面も視点に置くといいかなと思った。

ではちば農業女性農業者ネットワークの細谷さん。農林体験をするにはどうしたらいいか、良い知恵はあるか。

○ちば県女性農業者ネットワーク 細谷氏

私は玉ねぎを栽培しており、玉ねぎ狩りなどでお客さんに大分来ていただいている。この数字だけを見ると下がってるので、あれっと思ったが、ここ数年はやはりコロナの影響で、全体的な数値としては下がっているのかなと思う。

白子町に関してだが、保育所とか、小学生、それぞれ畑と田んぼとを持っており、季節に合わせて、植え付けとか収穫の体験をやっているの、子供たちは毎年何かしらの体験はしているところである。

○明石座長

では千葉県保育協議会の田中さん、保育園は農業体験・漁業体験を食育を含めてかなりやっているが、何か良い知恵はあるか。

○千葉県保育協議会 田中氏

やはり日々の給食で食べ物の大切さを伝えていくというのが大事だと思っている。私たちのところでは、保育園を3施設運営させていただいているが、法人の方で畑を持っていて、そこに子供たちが行って収穫や栽培の体験をするということをやっている。

やはり今、外部に出て行ってやっていくのが難しい中で、保育園や認定子供園、それぞれが工夫をして取り組んでいる状況であると思っている。

○明石座長

千葉県の小学校校長会の副会長の宮内先生にお聞きするが、小学生中学生の自然体験は1泊2日がメインになった。その中で農業体験とか漁業体験をするプログラムは増えているのか。それともあまり増えてないのか。

○千葉県小学校長会 宮内氏

おそらく、農業体験や漁業体験を1泊2日でやっている学校というのは、コロナの影響もあるが、それ以前から、あまり多くはないのかなと思う。大変貴重な経験だと思うが、宿泊というやはり修学旅行のようなものが主で、そこでの歴史的な勉強とか、観光とかを含めた内容が主なのかなと思う。

○明石座長

千葉県は、手賀の丘や鴨川など、非常に良い農業体験・漁業体験する施設がたくさんある。1泊2日の中で、炭焼きも含めて、農業漁業林業体験ができるようなプログラムを作っていただくと助かるのだろうが。

では次、視点を変えて、8番目の、「自分の食生活に問題があると思う県民のうち、改善意欲のある県民の割合」が73.7%。目標値の85%には届いていないが、食生活改善協議会の会長の高橋さん。何かご意見はあるか。

○千葉県食生活改善協議会 高橋氏

私たちも、改善意欲のある県民を増やしていくということは、常に気かけながら食改活動をしてきたが、コロナのせいにするわけではないけども、もう3年近く地域の食育活動ができていない中で、どのように伝えていこうかということを考えているところ。どこでもそうだが、行政的にも、公民館活動でも、食べるという体験ができない中で、どう伝えていこうかと。

どのように意識を変えていってもらうか、ということは、今後の活動も含めていろいろ考えていかなければいけないので、これがいい方法です、というのは今、私の方から提案できない状態。皆様から、いろいろなことを聞きたいと思っている次第である。

○明石座長

では千葉県PTA連絡協議会副会長の木村さん、家庭における、食生活の改善意欲の向上に何か良い知恵はあるか。

○千葉県PTA連絡協議会 木村氏

私ども保護者の側からすると、栄養士をつけたり、いろいろバランスのよい食事を提供するなど、学校給食で食育の対応や取り組みをしていただいていることは、非常にありがたいことであり、とても大切なことをしていただいていると思っている。

それぞれの取り組みをそれぞれの方々がやってくださっていることが非常に素晴らしいなと感謝をしているところだが、やはり育てる側の保護者の食育に関する意識をどのように啓発していくか、PTAとしてもやっていく必要があると思っている。

食育に関心があるご家庭は、こういったイベントとかボランティアだとかに参加していただいているが、まだまだそこに十分に達していないところもある。

全県の小中学校の保護者会の方々が、皆さんPTAに加盟しているものでもないのに、なかなか全体に行き届かないところもあるが、PTA連絡協議会としても、千葉県下で行われている食育の取り組みをしっかりと紹介するような時間を増やしていきながら、食育について今一度、各家庭で取組んでいただくようなきっかけを作っていきたいと思う。どう取り組んでいくかは、これから考えて行く必要がある。

○明石座長

では次、千葉県学校栄養士会の会長、星さんにお聞きする。栄養士は、学校給食でも食生活の改善に非常に頑張っている。そこでお聞きしたいのは、学校栄養士会として、おうちの方に何かメッセージを発信しているということはあるか。

○千葉県学校栄養士会 星氏

やはり保護者への通知というのは、私たちの課題でもあると思う。もちろん私たちが子供たちを育てる側だが、保護者の方にも、食育に関していろいろなこと、知識を身につけていただきたいと常に思っているところ。

先ほど木村さんがおっしゃったように、やっぱり関心のあるご家庭は、お料理教室にしる何にしる、参加してくださる。ただ、こちらが伝えたい保護者の方ほど、ちょっと伝わりにくいというところは、どの場面でもあるかと思うが、私たちは子供を通して保護者へ、また皆様に関してはそれぞれの立場で、それを伝えていくという形にはなると思う。

あと、子供から発信して、というところだが、なかなか手が届かないところが多々あり、悩んでいるところではある。今日いろいろなお立場のお話を聞くことができ、とても感謝している。

○明石座長

では千葉県栄養士会の鯨岡さん。栄養士会として、何か良い知恵があるか。

○千葉県栄養士会 鯨岡氏

県の栄養士会としては、毎年食育の健康料理教室を行っていたが、コロナの関係もあって対面式の料理教室ができないので、レシピ集を募集して、ホームページ等で案内していくという活動を今年度は行っている。例えば高齢の方とか、小学生のお子さんに対しての、実際に対面しての料理教室ができないので、その代わりとして、そのようなことを行っているところである。

先ほど、8の「食生活に問題があると思う県民のうち改善意欲のある県民の割合」というものが、目標値を下回っているということがあった。ほとんどの方が食生活に何らかの問題があるという認識はあるとは思いますが、その中で改善意欲が出てくるか出ないかというのは、どのように改善していいかわからないという方も多いのかなと思う。

それについて、例えば、食生活の改善というのは、個人個人でどこまでできるかが決まってくると思うので、その人その人の生活パターンとか、年代別とか、ライフステージ別に検討して、改善していくような働きかけも大事なのかなと思う。

それから家庭環境もあると思うので、その中でできるところはこういったことか、というのを見つけて啓発していく必要がある。会としてどこまでできるかわからないが、このように考えているところである。

○明石座長

この8番は、食生活に問題があると思う県民のうちの改善意欲という、二重のことを聞いているが、確かにこれは大事な項目。ある程度指針を示していかないと、どう改善していいかという方向性が見えないところがあるかもしれない。

では、12番の、「ゆっくりよく噛んで食べる県民の割合」は55%が目標だが48%

と低い。歯科医師会の理事の高野先生、何かいい知恵がありましたら。

○千葉県歯科医師会 高野氏

なかなか達成に向けて進まないという状況が見て取れるが、これに関しては家庭での状況などもあるので、実際少し難しいところではないのかなと思っている。

やはり、現代の生活様式というか、夫婦が共働きだったりする状況から考えると、ごく稀な例かもしれないが、食事をお母さんが作って、子供たちだけで食べなさいということもあったりするのかな、とは思う。そういったところの改善というのは、各家庭の状況もあるので非常に難しいところがあると思うが、学校の給食時に、ゆっくりよく噛んで食べる教育やお話をしていただいて、学校で学んだことを家庭に持ち帰ってもらうとか、そういったことがいいのではないかなと思っている。

また、ゆっくりよく噛んで食べるということが、何にいいのか、というところを広くアピールしていただきたい。

先ほど、良いイベントをやってらっしゃったんだなと思ったが、やはり直接触れ合いながら、ゆっくりよく噛んで食べることがいいんだよ、発育とか歯並びに関してもそういったことが非常に重要です、というアピールをしていただいて、ゆっくりよく噛んで食べる県民の割合を、少しずつでも増やしていただく、という形にしていくのがいいのではないかなと思っている。

○明石座長

では、11番の「外食や食品を購入する時に栄養成分表示を参考にする県民の割合」、数値があまり伸びない。特に成人男性は4割。

これに関して、千葉県食品衛生協会専務理事の山田さん。何かご意見ありましたら。

○千葉県食品衛生協会 山田氏

千葉県食品衛生協会は、食品衛生責任者の資格を得られる講習会を県から委託され実施している。今年度から講習会のカリキュラムが変更され、食品表示が追加され、そのなかで栄養表示についても触れており、食品関連事業者側として表示の重要性を講習しているところ。

消費者に対する方策は浮かばないが、一個人としては、減塩、低カロリーなどの表示には目が行く。

○明石座長

ではキッコーマンの眞鍋さん。栄養成分表示については、特に成人男性が低いが、この数値を上げるにはどうしたらよいか。

○キッコーマン(株) 眞鍋氏

なかなか難しいテーマであると思うが、もちろん成人男性に対して教える機会なりを持つということも非常に大事だろうと思うし、少し若い、小学校の段階などで、栄

養士の先生方や食育のボランティアの方々に、説明の機会を持っていただくのがいいかなと思っている。

私どもでも、コロナの中でなかなかできなかった、従来からやっていた食育関係のイベントや出前授業が、少しずつできるようになってきている。

特に、成人向けということに関して申し上げますと、私どもは日本食育インストラクター協会と提携して、食育の基本について食育講座というのも実施している。従来はどちらかというと学校のPTAの会合であるとか、栄養士様の会合に、日本食育インストラクター協会の方から講師を派遣して、表示の問題も含むいわゆる食育の基本をご説明申し上げることを実施していた。

そのような会合自体が減ってきたので、今はオンラインという形で提供させていただいている。オンラインだけでなく、講師が派遣できる場所であったら、感染対策に気をつけながら実施することも可能なので、そういうところでご協力できれば、と思っている。

○明石座長

13番の「食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている県民の割合」も、目標80%で、23%ぐらい届いてないが、千葉県の食品衛生協会の専務理事の山田さん、いかがか。

○千葉県食品衛生協会 山田氏

食中毒等の事故を防止するため、リーフレットを作り、県や中核市保健所と連携して、配布や一部町内会回覧等を行っている。リーフレットの内容は、県内の食中毒発生状況、家庭でできる予防のポイント、スイセン等有毒植物の写真をのせ「食用と間違えやすい有毒植物に注意しましょう」等。

また、衛生的な手洗いを伝授できる手洗いマイスターが300名おり、食品事業における食品取扱者に指導を行っている。

家庭内での食中毒は、全国施設別集計で飲食店につき2番目で全体の約18%を占めている。家庭での調理者向けに講習会を事業化していただければ、手洗いを含めた食中毒対策を実演し、正しい知識の習得や食中毒予防につながるのではないか。

○明石座長

委員の皆さん、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

次に、第四期の食育推進をするための全体的なアイデアについて伺う。例えば、県が食育プロモーションビデオを作るといようなことを進めているが、委員の方々から、こういうプロモーション動画がいい、というものが何かあるか。

千葉食育ボランティアの今井さん、こういう動画を作ると県民は食育にもっと関心を持ってくれるという、いいアイデアはあるか。

○ちば食育ボランティア 今井氏

千葉は、農業、林業、漁業のすべて、食べ物や食材の宝庫なので、観光プロモーションではないが、おいしい食べ物を特集したようなプロモーションビデオがあるといかなと思う。

○明石座長

千葉県PTA連合連絡協議会の副会長の木村さん。このような食育推進のプロモーションがあるといいな、ということはあるか。

○千葉県PTA連絡協議会 木村氏

県の取り組んでいる様々な推進事業もあるし、それぞれの市で行っている取組みもあるので、情報が保護者間にうまく行き届くような発信の手法があるとすごくいいかなと思う。SNSとか、そういったものを活用することも大切かもしれないが、色々な情報が入手できると、保護者も確認をするので、そういった取組みもあわせてやってもらえるといいかと。

千葉県PTAも、全国的にもそうだが、この3年間は今までやっていた活動がなかなかできていない、その中で少しずつ再開をしているところもあるので、私ども県のPTAとして発信できるような情報提供をいただいたりすれば、それを他の地域にお届けすることも可能かなと思う。皆さんと一緒にいろんなことを考えていきながら、この食育の取組みを推し進めていければと思っている。

○明石座長

ではイオンの鈴木さん。

○イオン(株) 鈴木氏

我々も、どういうふうになれば受け手に関心を持っていただけるかと、いつも苦労して情報を出している。先ほど申し上げた通り、どのように作られたか詳しく知りたい人がきちんと知ることができる情報を整えておいて、例えばJANコードやQRコードを読みこむとその情報が全部わかる、というようなことをやっている。

ただ、もう一步先へ行こうと思うと、やはり食育は食べているものが自分の血と肉になって健康になっていくという話なので、その繋がり感がもう少しあるとよいかなと思う。我々のアプリで、自分で食べたものを打ち込んでいくと一定の数値管理、健康管理するようなものをサービスとして展開しているが、そういうものを県で作って、健康ポイントみたいなもので、インセンティブではないが、そういうものをつけてやっていくというのものもあるかもしれない。

ただの情報発信とか啓発だけだと、やはり一定程度の成果しか出ないのではないかなと思う。

○明石座長

では最後にキッコーマンの真鍋さん。

○キッコーマン(株) 眞鍋氏

私どもは千葉県で生まれた会社で、メインの製造拠点を千葉に持っている。食育をより推進するという点においては、このコロナ禍で、特に小学校の生徒さんに来ていただいた工場見学もずっとできていなかった状況にあった。それも徐々にではあるが、学校単位でご見学していただける体制に整いつつあるので、ご検討いただきたいと思う。

工場見学と同時に、やはり醤油は千葉の県産品なので、その醤油づくりを体験していただけるような部分も、プログラムとして設けている。

また、学校の方にお邪魔して、醤油のことについて、食育のことについて授業をさせていただく出前授業の方も、これも基本的にオンラインという形で、学校様からのご要望に応じていつでも体制がとれるようになっている。

それ以外でも、ご相談しながら、直接お伺いできることもあるのではないかと考えているので、改めてホームページ等をご覧いただければ、と思っている。

○明石座長

時間が来たので、この辺で終わりたいと思うが、私の方から最後に一言。

可能であれば、6月と11月の食育月間で、三つの課が共同で盛り上がり、そこに民間のイオンさんとか、キッコーマンさんを含め、漁業も農業も含めて、一つのシンボリックなフェスティバルみたいのを作っていけないかな、と。皆それぞれ頑張っているが、この旗のもとに集まろう、ということがあると、よりいいかなと感じている。

今日は貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。